

東海村わかものまちなづくり コーディネーターを紹介します

村では、今年度から「わかものまちなづくりコーディネーター」を配置し、“こども・わかもの拠点”や“居場所づくり”に向けた基礎調査のほか地域との関係づくり、若者の活動支援などの取り組みを始めました。

今後の居場所づくりについて検討するため、村内の公共施設や学校、民間施設、地域で活動する団体等を対象にコーディネーターが現地調査や訪問調査を実施します。調査へのご協力をお願いします。

調査期間▼6月～9月(予定)

調査内容▼利用状況や活動内容、居場所や地域の魅力についての聞き取り

わかものまちなづくりコーディネーター▼酒井慶太さん(委託業者：株式会社C & Yパートナーズ)



【問い合わせ】地域戦略課こども・わかもの政策担当(☎282-1711 内線1339)

ふるさと歴史

歴史を再発見

教科書の落書き!?

現在、東海村の小中学校には三〇〇人以上の職員がいます。教員は授業等教育を担い、事務職員は、施設・物品の管理、職員の給与、予算管理、入学・卒業・転入・転出の事務手続き、学校行事の運営など多岐にわたる業務を担います。

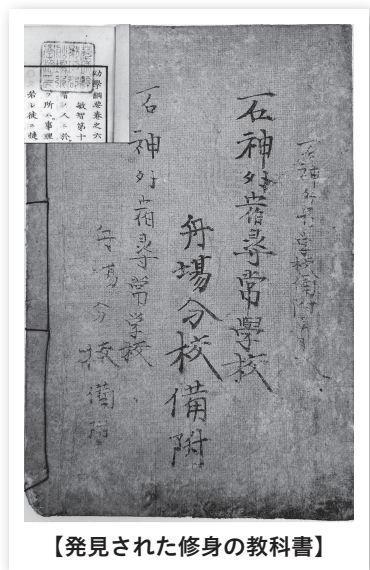
先日、船場地区の「学校世話役」という肩書を持っていた方から新たに数百点の古文書が発見されました。「学校世話役」は明治時代初期に学校に関する事務を担っていました。この頃は、教員一名、学校世話役一名で一つの学校を運営することが一般的でした。一人で教育を担う教員の苦勞は想像しやすいのですが、農業などの本職と兼業で学校事務を一人で担う学校世話役人の苦勞は想像を絶するものです。当時の学校は、校舎建設の寄付金集め、就学率向上の働きかけなどの仕事も担っていました。

掲載資料は『東海村史』では未調査だった修身の教科書です。「茨城縣那珂郡舟場小学校印」と蔵書印があり、学校の備品と分かります。裏表紙には「石神外宿尋常学校舟場分校備附」と書き込まれています。これまで旧石神村の小中学校については、当初神官の居宅で「温良舎」という名で始まり、「石神小学校」があったことだけが分かっていました。この教科書によって、明

歴史と未来の交流館学芸員

高増 慧

治二十二年に石神外宿村、石神内宿村、竹瓦村、亀下村、舟石川村が合併し、石神村となる前には、石神外宿尋常小学校があり、分校として船場地区にも学校があったことが分かりました。船場村は明治二十二年に村松村となりますが、その前は石神地区とつながりがありますが、その前は石神地区を創建し、代々氏子総代等の代表的な役割を担ってきたこと、②明治時代初期の学校は村を代表する神社・寺院を使用したこと、③戦時中に子どもたちが集まる場であったこと、から船場稲荷神社と推測しています。教科書に書き込まれたわずかな文字で、東海村の学校史が少し明らかになりました。



【発見された修身の教科書】